

祝祭日には国旗を掲揚しましょう

敬神尊皇 黎



明報感謝

監修/日刊ひぐらし 〒151-0071東京都渋谷区本町1-30-18-107 http://www.higurashi.net/ 第0029号
護國青年會議 http://www.gokoku.net/ 発行人/山本修三 編集人/戸出蒼流 平成18年9月27日

奉祝 親王殿下御生誕

「日本に神風が吹き、雅が敵を討つ」昨年十一月、白い頭髪以外は真つ赤かに染まった吉川弘之なる口ポット博士を座長とする『自称有識者会議』の面々は、女系天皇を容認する小泉首相の意を汲んだ報告書を答申した。座長の吉川弘之を始めとする『憂識者』たちは、世界に類を見ない悠久の歴史と伝統を、その愚かな論理で破壊せしめんと画策した。彼らは皇室典範を改悪し、万世一系で継承してきた皇統の断絶を謀ろうとしたのである。

これに対して女系天皇に反対する自民党内の良識派議員は、二ヶ月前の郵政選挙における首相の狂気と、造反した同僚議員の末路が脳内を過ぎり、公に反対を表明する議員は小數に限られていた。事態がそのまま推移したならば、改悪法が成立してしまう危険性があった。しかし八百万の神々は、大八洲を見捨て給うことはなかった。本年二月、日本に秋篠宮妃紀子殿下御懐妊という神風が吹いた。

三月七日、私は『日本の伝統を守る一万人大会』の聴衆の一人として日本武道館の最上段で会場全体を見渡し、登壇者の話に聞き入っていた。会場を埋め尽くした聴衆の拍手が一段と高まったのは、ジャナリストの櫻井よし子が登壇した時だった。万雷の拍手で迎えられた櫻井よし子は、「紀子様が、御懐妊になりました。このことは私たち国民全員に『もつと』しつかりお考えなさい、あなた方は何者ですか？無国籍の民ではありませんか？日本民族の末裔でしょ？この日本国の歴史と伝統と文化を忘れて根無し草になつてどうなさるおつもりですか？」と聞いておられるのだと思います」と穏やかな語り口で会場を埋め尽くした一人一人の心の深層に訴えかけた。櫻井の言葉は「手羽女」でも敵を討てるということを立て証した。まさに「雅が敵を討つ」瞬間であった。

「再び吹いた神風」雅が敵を討つてから半年が経過した皇紀二六六年九月六日午前八時二十七分、秋篠宮妃紀子殿下が、親王殿下をご出産なされた。あきずしま大和の国に再び神風が吹き、日本中に欣喜の萬歳がこだました。ニュース速報のテロップで親王殿下御誕生を知った私は、思わず立ち上がり皇居を遙拝し、萬歳を三唱した。十時からの会合をキャンセルして武蔵野御陵を訪れると、すでに数十人の善男善女が参っていた。すれ違う人々は「おめでとございませう」と声を掛け合い互いに喜びを分かち合った。私には降りしきる雨も神々が

喜びの余り流した喜悦の涙のように思えた。

「両陛下の満面の笑みと軽薄な連中の不毛な議論」時おりしも北海道を巡幸されている天皇皇后両陛下の御姿をテレビで拝見した。御姿をひと目でも拝見しようと馳せ参じた国民に対して、陛下は満面の笑みを湛えて手を振られた。そのまま歩を進めるのかなと思っていたら、再び立ち止まり、手を振られたのだ。お顔には満面の笑み。これこそが龍顔の真の笑顔だったのだ。恐れ多くも私は、陛下におかれましては、この数年間、心からお笑いになられたことはなかったのではないかと拝察申し上げた。



満面の笑みで手を振られる両陛下

陛下の手の届かぬところで軽薄な連中が二千六百年の伝統を土足で踏み躪るような不

毛な論議をしている。本当は陛下のお言葉が一言でも漏れれば、そんな連中の蠢動など雲霧消すのだが、敢えて陛下は、それをなさらなかつた。見かねた三笠宮寛仁殿下が、陛下の御心を代弁したご発言をなされ、朝日新聞がそれを口汚く罵るといふ暴挙に出ても、陛下は口を開かれなかつた。現行の憲法において象徴の座にあられるということとは、忍ぶことであると陛下は身をもつて示されたのだ。不逞な輩の不遜な振る舞いを耐え忍ばなければならぬ大御心をお察し申し上げると流れる涙を禁じ得ない。

「親王殿下、命名の儀」日本中が奉祝ムード一色となった御生誕から七日目の十二日、親王殿下の命名の儀が、東京港区の愛育病院で行われた。お名前は「悠仁(ひさひと)」、身の回りのものに付けられるお印は「高野槇」に決定した。お名前の「悠」には、ゆつたりした気持ちで長く久しく人生を歩んで欲しいとのご夫妻の願いが込められている。お印は、まっすぐに育って欲しいとのご夫妻の思いを込め、日本固有の直立の常緑樹である高野槇が選ばれた。個人的な見解となるが「悠」の字には「どこまでも長々と続くさま」という意味があるところから「長い間続けてきた万世



紀子妃殿下と悠仁親王殿下

一系の皇位継承を今後も続けたい」と願う天皇家と秋篠宮家の思いが込められているの... 両陛下と両殿下の願いは、日本国民全員の願いである。

「避けては通れない皇室典範改正論議」

日嗣の皇子のご誕生により、保守の論壇でも改正論議は急ぐ必要が無いとする論調が多い、中には五十年も先送りにすべきだとする評論家もいる。

すでに多くの論客が言っていることの繰り返しになるが、安倍新内閣は、昨年の愚かな有識者たちの答申とやらを白紙撤回して、臣籍降下された元皇族の皇籍復帰と、現皇族との養子縁組により、男系男子による皇位継承を確固たる

ものとすべきである。

二六六年の永きに亘り、皇室の伝統を連綿と繋いで来た日本国と先達の叡智に、私たちは感服し、私たちは感服し、只々ひれ伏すだけである。万世一系の皇統を守るのか或いは女系天皇を容認する

のかの問題は、日本国と先達の叡智に平伏する心情の有無に掛かってくるのだと思う。安倍新総理には、日本は如何なる国家であるべきかということを確認しと見極める目を持って欲しいと願う。

憲法改正や教育基本法改正、拉致問題や特定アジアとの関係など問題は山積しているが皇室典範改正は、日本の歴史と伝統と文化、日本人の精神の根幹となる問題である。安倍総理には、前任者のように愚かで軽率な会議に委ねることなく、日本が世界に誇る皇室の歴史と伝統と文化を尊重し、未来永劫に亘って安泰となるような真の皇室典範改正を切望する。

編集人・戸出蒼流



お印の高野檜

親王殿下ご誕生と皇室典範

初めに、紀子さまの第三子御出産を心よりお慶び申し上げますと共に親王殿下の健やかなるご成長をお祈り申し上げます。皇紀二六六年九月六日午前八時三十分、港区麻布の愛育病院で四十一年ぶりの皇位継承者がお生まれになりました。秋篠宮妃紀子殿下は部分前置胎盤と診断され、皇室では初めての帝王切開だったが無事親王殿下をご出産なされ日本中が晴れやかな喜びに包まれました。浅はかな考えで皇室典範改正を目標

全員が、皇室に対する専門的知識が欠如しており、最初から女系容認を結論付ける議論をしていただけである。そもそも念頭におかなければならなかったことは、現行憲法で日本の象徴とされる天皇陛下を尊重した議論をするということ、百二十五代に亘って受け継がれてきた皇統を絶やすことなく、後世に残す為の議論をするということである。これらを理解していない連中が軽々しく「改正」を口にすべくではない。有識者の答申は「改悪」以外の何ものでもない。英国の一部のメディアが、皇位継承問題に触れ、日本は遅れているなどと報道したが、万世一系の皇統を連綿と受け

継いで来た日本の皇室と、血脈のはつきりしない王室などと同レベルで見られることは、迷惑千万である。敢えて英国の王室制度を批判しないが、何故この素晴らしい日本の伝統が理解できないのか」という大きな疑問を生んだ。親王殿下がお生まれになられたことにより、今日明日にでも皇室典範改正論議を進める緊急性は無くなった。今こそ原点に戻り、皇室を理解することから始める必要がある。変えることは容易いが、奇跡とも言える日本の伝統と世界に類を見ない皇室を、この先もずっと守り続けていかなければならないと痛感する。

編集部・秋山慎一郎

安倍内閣閣僚名簿

- 総務大臣 菅義偉、外務大臣 河野太郎、財務大臣 麻生太郎、厚生労働大臣 菅義偉、農林水産大臣 末次修平、国土交通大臣 末次修平、環境大臣 川原大輔、防衛大臣 河野太郎、内閣府副大臣 河野太郎、官制改革 河野太郎

- 自民党三役 幹事長 河野太郎、事務総長 河野太郎、副総長 河野太郎

祝祭日には国旗を掲げましょう